



## <歴史シリーズ・最終回> 全日本エンデュランス馬術大会が始まる！



今までお伝えしてきた通り、先人達のたゆまぬご尽力のお陰で、国内でエンデュランスが競技として少しずつ広まって、いよいよ 2000 年には北海道・鹿追で「全日本エンデュランス馬術大会」がはじめて開催されるに至ります。

全日本は今まで通算 20 回開催されていますが、そのうち3回だけが本州での開催、他は全て鹿追での開催となっています。

「全日本エンデュランス馬術大会」は「選手権競技」と「一般競技」で成り立っていますが、ここではその設定された距離に着目して、変遷をご紹介します。

2000 年	第 1 回大会	選手権競技は 80km、一般競技は 40km で行われました。
2001～2002 年	第 2-3 回大会	選手権競技が 100km に延び、一般競技も 60km に延びました。
2003 年	第 4 回大会	選手権競技は 100km のまま、一般競技は 80km に延びました。
2004 年	第 5 回大会	選手権競技が 120km に延び2日間競技となりました。馬の負担を考慮したのです。 1 日目 = 6:00 スタート 40km + 40km      2 日目 = 6:30 ~ 1 日目のゴール差で順番にスタート 20km + 20km
2005 年	第 6 回大会	選手権競技が1日競技となり、スタート時間は 3:00 となりました。 その後もスタート時間は試行錯誤しますが、この年から選手権競技は 120km の 1 日競技として定着します。
2008 年	第 9 回大会	山梨県・八ヶ岳で初めての本州開催が実現します。 スタートは 6:00。1 着の人馬は 18:00 頃にゴールしましたが、最終着の人馬は 21:00 頃のゴールとなりました。 <u>スタートは暗いが明るい時間帯にゴール ⇔ 明るくなってからスタートするがゴールは暗い時間帯</u> 選手にも馬にも運営にも大きな影響を与える「スタート時間」を検証するのによりテストケースとなりました。
2013 年	第 14 回大会	長野県・飯綱高原で初めて開催されました。
2016 年	第 17 回大会	長野県・飯綱高原で開催、一般競技に初めて 60km が追加されました。 この年で、本州での開催は一旦途切れてしまいます。
2019 年	第 20 回大会	一般競技に初めて 40km が追加されました。

この 20 回の中に、さまざまな人馬が選手権競技を目指して出場されました。

それぞれの大会での総エントリー数に大きな変化はないものの、エントリー距離を内訳で見ると、ずいぶん変わってきている事がわかります。

2020/3/13 にその分析を UP していますので、あわせてご覧ください。 ⇒ 「統計・資料」③ [全日本選手権\\_年度 / 距離別\\_出走数\(2000-2019\)](#)

ご拝読ありがとうございました。

文責：日本エンデュランス・ライド協会 高島

